

2013年11月28日 全9頁

中国：シルクロード経済ベルト構想と中国西部

沿岸部とは違った改革開放の段取りが必要

経済調査部
エコノミスト 後藤 あす美

[要約]

- 2013年11月12日に閉幕した三中全会において、中国政府の指導部は自由貿易区の設置を加速させ内陸部の開放度を高めていく方針を表明した。同年9月末には上海において自由貿易試験区が設立されたが、その拡大ペースが注目されている。機を同じくして、9月に習近平主席は中央アジア諸国を歴訪した際、ポスト東南アジアとして上海協力機構(SCO)をベースとしたシルクロード経済ベルト構想に言及した。
- この構想は中国にとって、資源の安定確保の緊急性や中央アジアの外交スタンスの変化、欧州市場へのアクセスの円滑化など複数の課題の解決の糸口を有すると捉えられている。同時に、中央アジアと国境を接する中国西部の発展に繋がる産業支援も実施できるだろう。自由貿易試験区などの制度を中国政府がどのように活かすか、その舵取りが注目される。

三中全会で確認された自由貿易区の拡大方針

2013年11月9日から12日まで、習近平主席が本格的に政権の実権を握ってその手腕が問われた三中全会が開催された。このなかで、改革の深化への固い決意が表明され、その手法として自由貿易区の設置を加速し、内陸部の開放を促進することにも言及している。同年9月29日から上海で自由貿易試験区がスタートし、2~3年後を目処に上海自由貿易試験区でのパイロット事業を全国へ展開する方針となっているが、その進捗度合いがどの程度になるか、国内外からの関心も非常に高い。

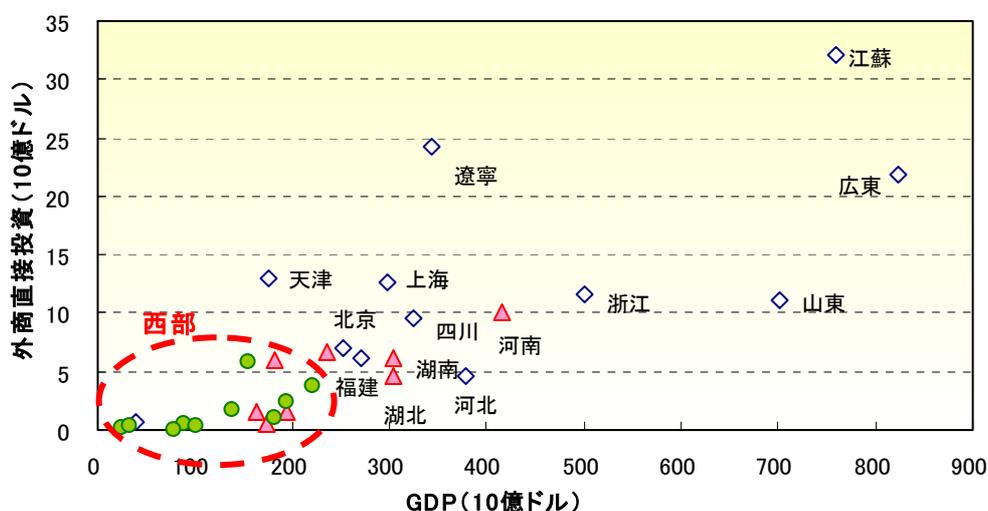
上海が自由貿易試験区に認定された理由は、鄧小平の改革開放政策の担い手としてパイロット事業を受け入れてきた基盤に加え、中国本土の中位に位置し、国際的な金融・貿易拠点として発展した沿岸部である地理的優位性を有している点であった。日中韓 FTA・RCEP という枠組みが施行されれば、物流面を中心に上海の自由貿易試験区の利用度は増す可能性がある。また、上海自由貿易区の設置によって、広東省は勿論のこと、深セン・天津・青島・厦門など改革開放のフロンティア的存在が上海に後れを取らないよう切磋琢磨している。中国沿岸部の新たな改革開放に好影響を与えている。

ポスト ASEAN として上海協力機構に再び光

一方で、中国西部地区（内陸部）に目を向けると、2000年に当時の江沢民国家主席によって西部大開発の号令がかけられ、財政のばら撒きの対象となり、二桁成長を続けた重慶市という象徴的存在を得た。しかし、10年という時間を経過すると、資源開発バブルが不動産投機バブルに繋がり、内モンゴル自治区などのゴーストタウンは報道でも取り上げられたように、政策意図と実態の溝が浮き彫りになっている。また、中国に存在する55の少数民族のほとんどが西部に分布しており、多民族国家の歪みが情勢の不安定さを引き起こすなど、難しい事情が見え隠れする。

それだけではなく、重慶市や四川省に光をもたらした台湾資本の鴻海などが台湾国内での投資・雇用の拡大を表明し、中国本土の人件費・不動産コスト増を見越して地域内への回帰色を徐々に強めている。優遇税制などの効果から、08年以降、外資が多く進出してきたが、物流網の未整備ゆえに進出できる産業が限られる点が課題である。西部地区の2013年1-10月の対内直接投資は前年比▲1.1%であり、中国の対内直接投資総額の7.3%しか導入できていない。下図からも分かるように、他の地域と比較して経済規模に比例する外資からの投資を受け入れられていない。外資進出の勢いが維持されるかの正念場を迎えつつある。

省別の外資による直接投資と GDP 規模（2011年時点）



(注) 青色枠の◆=東部、赤色枠の▲=中部、緑色枠の●=西部、2011年の年間平均レート1ドル=6.46人民元で換算
(出所) 中国商務部、世界銀行より大和総研作成

こうなると、中国国内で新たな段階の改革開放を促進する沿岸部との温度差が拡大し、経済格差が社会的不安定に繋がりがねない。

習近平国家主席は福建省での職務経験が長かった。福建省と海峡を面した台湾の財界には太いパイプを持っており、中台間の経済連携協定である ECFA（兩岸経済協力枠組協定、Economic Cooperation Framework Agreement）の締結を後押しする材料にもなった。FTA という性質だけでなく、サービス産業を中心に双方に優遇的・優先的措置を付与し、台湾に流れ込んでくる華僑資金を中国西部に流入させることに成功し、双方の関係性を大きく変えた。中台の連携強化

で恩恵を受けた福建省のように、アジアの産業的なハブとなりつつある ASEAN と早々に ACFTA (中国 ASEAN 自由貿易協定、ASEAN China Free Trade Agreement) を結んだことにより、隣接する中国の雲南省などが成長ドライバーを得た。同様の変化を西部にもたらずパートナーが必要だ。

ここもと、陝西省関係者を総じて「陝西閥」と呼ぶが、彼らの存在感が増していると聞く。習近平国家主席が西部地区に含まれる陝西省出身であることが背景にあるが、共産党入党後初めての勤務地でもあったこの地域のテコ入れの重要性も身に染みているだろう。中国西部地区のテコ入れをしていくにも、中国西部と国境を接している各国との交易を活発化させ、経済的な協力関係を一層深めることを重視しているのであろう。こうした文脈から再度注目されているのが、上海協力機構 (Shanghai Cooperation Organization; SCO) である。

シルクロード経済ベルト構想を提唱の意図は？

習近平主席はロシアで開催された G20 サミット前後の 9 月 3 日から 13 日までトルクメニスタン、カザフスタン、ウズベキスタン、キルギスの 4 か国を歴訪し、キルギスで開催された第 13 回上海協力機構首脳会議に出席した。この一連の訪問で中央アジアとの連携強化をアピールし、強調されたのが「シルクロード経済ベルト」の建設である。

上海協力機構とは 2001 年に正式に発足した、中国、ロシア、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、ウズベキスタンで構成された安全保障協力機構である。加えて、オブザーバーとして、モンゴルやインド、イラン、パキスタン、アフガニスタンが参加しており、ベラルーシやスリランカ、トルコがパートナーとして会議参加を承認されるなど、その枠組みは徐々に拡張してきた。上海協力機構によって、中国はアジア・太平洋地域政策のテコ入れをし始めていた米国と様々な問題に対峙した際、背後から不意を突かれないような安全保障体制を実現しつつあった。特に多少の争いは残るものの、国境問題を有しているロシアやインドなど BRICS として成長した各国との協力関係の構築に成功している。

今回、提案された「シルクロード経済ベルト」構想は、上海協力機構を安全保障が主眼の連合体から経済連合へ格上げを狙ったものと捉えられる。環太平洋戦略的経済連携協定 (TPP) や環大西洋貿易投資連携協定 (TTIP) への対抗心で、それらに関係していない地域での経済的覇権意欲を改めてのぞかせた結果と考えられる。2013 年 9 月 15 日、寧夏回族自治区では中国-アラブ諸国博覧会も開催され、習近平国家主席が祝辞を文書で寄せ、俞正声全国政協主席 (中央政治局常務委員) が基調講演を行うなど、中東にもその布石を打っている。ポスト ASEAN として中央アジアを軸にアジア大陸の経済的連携を刺激することで、中国の沿岸部の発展を西部地区へと波及させ、経済的再起を模索しようとしているように感じられる。

中国が中央アジアを中心とする上海協力機構への関心を高めている理由は、他にも大きく分けて 3 つ程度存在する。

鍵を握るのは上海協力機構のオブザーバーであるモンゴルだ。そもそも、モンゴルは日本や

米国、韓国、ドイツなどが ODA などの経済協力を続けてきており、それ以前は親露派と言われてきた。2005 年頃からは日本でも高金利国として投資の魅力が伝えられた。中国では胡錦濤政権がモンゴルの最大貿易相手国として協力を深化させることで合意したことを契機に、モンゴルから積極的に資源を輸入し、急速に経済連携を拡大したが、歴史はまだ浅い。

そのモンゴルは、ロシアと中国に挟まれ、他国に資源を輸出する物理的手段が制約されてきた。しかし、近年、仏原子力大手のアレバがモンゴルの国営モン・アトムとウラン開発で協力に向けた合意を発表するなど、欧米先進国勢力の進出も活発化している。2013 年 9 月 13 日には日本の安倍首相がモンゴルのアルタンホヤグ首相と会談し、資源開発の拡大や航空便の増加、農業分野での技術協力で合意している。モンゴルは鉱業・皮革などの産業に頼っており、発展を考慮すると環境に配慮した製造業の育成など、先進国が有する新技術を習得しなければならない事情もあり、中国よりも欧米・日本に関心が向きやすい時期でもあろう。モンゴルが積極的な外交に展開するようになった。それに危機感を持っているのか、10 月 25 日、中国・モンゴル間で首脳会談が行われており、インフラ建設・鉱山開発・金融などでの協力の方針を中国側は示した。資源豊富な隣国であるモンゴルへの影響力を保持・拡大するツールとしても上海協力機構が位置付けられているのであろう。

もう 1 つの変化は中国国内の事情である。海洋油田も含め、中国の国有資源会社は油田権益の確保・開発を加速させてきた。その動きは、他国領土内の権益にも及んだ。自国外での石油関連投資額をみれば、中国はトップと言われている。ただ、産業構造の転換を急ぐ中国政府の指導部は、国有資源会社の改革を断行し、民間企業の参入障壁を緩和した。加えて、生産性・投資効率を考慮した資産（権益）の整理を開始。中国国有資源会社の中国石油化工（シノペック）はカナダの大規模シェールガス田の売却に踏み切る方針でいるなど、徐々に動きが表面化してきた。その他、2011 年 10 月から開始されていた重慶のシェールガス探査井も商用化の期待に応えられず、閉鎖となった。一方で、ロシア国営石油会社ロスネフチは拡大する中国の原油市場へ輸出しているが、今後 2~3 年で同社の輸出量は合計日量 100 万バレル超になると見込み、強気である。同社は 10 月 18 日に中国国有資源会社の中国石油天然ガス集団（CNPC）と東シベリアの油田開発で覚書を交わした。天津市にある 2 社の合弁の石油精製施設が順調に生産能力を上げており、中国側が、輸送コストや開発コストを抑制できるエネルギーの調達方法を模索する上で、ロシアなどからの調達を拡大することが現実的であるとして重要視している証拠と思われる。上海協力機構の関係国の特徴はロシアを中心に高い資源の生産量を誇り、且つ、未開発に近い資源を多く有する点である。ロシアの場合、資源に加え、中国人が多く消費する鉱石の生産量は、例えば玉石が世界の 8 割、宝石が同 3 割、ダイヤモンドが同 27% を占める。これは改めて言及する内容ではないだろうが、中国にとっては重要なポイントである。

最後の理由は、中国が漸く EU との FTA 交渉に繋がると期待される投資協定の交渉開始のテーブルに就けたことだろう。市場経済国家として認められていなかった中国は EU から様々な製品に反ダンピング課税を適用される状況で、環大西洋貿易投資連携協定（TTIP）交渉のスタートに焦りを感じていた。2013 年 4 月 27 日からは成都~ポーランドを結ぶ鉄道が開通し、12 日間かかり、空輸よりも 5 日間長いのが、コストは 1/4 というメリットも存在する。また、最近では

夏の間利用できる北極海航路を活用し、欧州へのアクセスの短縮を模索している。買収などの手段も利用し、欧州市場でのプレゼンス拡大を加速させていた中国としては、欧州に中国との間に存在する中東・中央アジアの市場に目を向けさせ、米国に陣取られない手立てを示したいところである。

世界の資源の可採埋蔵量（各国・各地域の世界に占めるシェア、%）

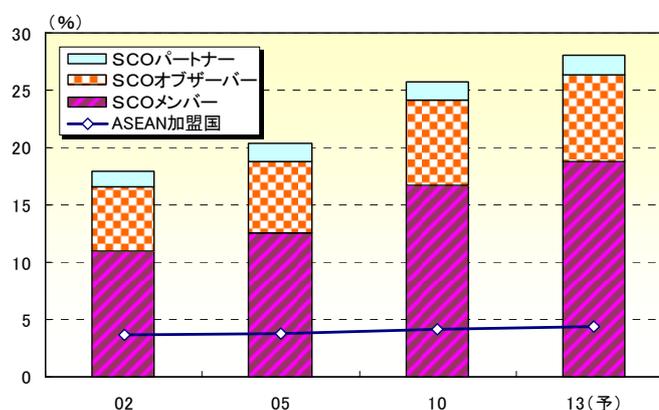
	石炭	ガス	石油	鉄鉱	鉛	マグネシウム	ニッケル	炭酸カリウム	レア・アース	スズ	亜鉛
SCO関係国	29.7	40.1	16.8	23.4	13.9	28.2	7.5	42.6	2.8	7.3	9.6
中国	13.3	1.7	1.0	12.1	16.5	22.0	3.8	2.2	50.0	31.3	17.2
ASEAN	0.8	2.9	0.8	-	-	-	6.3	-	-	25.4	-
その他	56.2	55.3	81.3	64.6	69.6	49.8	82.5	55.2	47.2	36.0	73.2
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(出所) U.S. Department of the Interior, U.S. Geological Survey 発行 “MINERAL COMMODITY SUMMARIES 2012”より
大和総研作成

上海協力機構の現状は？

上海協力機構に何らかの形で参加している国は中国を含め 14 개국である。この 14 개국が世界の GDP に占める割合の推移は、IMF の予測値（PPP ベース）で 2013 年は 28.0%（中国を除くと、12.6%）となる。習・李政権が掲げる“海上シルクロード”の中心的存在になる ASEAN 加盟国の 4.4%と比較しても非常に規模が大きい。人口規模も 14 개국のうち、中国・インドを除いた規模で約 6 億人と、これだけで ASEAN 全体の人口と並ぶレベルである。

SCO 関係諸国の世界の GDP（PPP ベース）に占める割合の推移（参考：ASEAN 加盟国）



(出所) IMF より大和総研作成

しかしながら、中国海関総署によると、中国の貿易相手国としての SCO 関係諸国の存在感は非常に小さいもので、2012 年の実績で、中国の輸出相手国としては 7.6%、輸入相手国としては 6.3%しか占めていない。輸出相手国としてのウエイトは 03 年比で 1.8 倍となったが、それでも ASEAN に逆転されており（輸出相手国として：10.0%、輸入相手国として：10.8%）、中国が ACFTA（中国 ASEAN 間の FTA）を先行して締結した背景であろう。現在、中国はカザフスタンの最大貿易相手国、ウズベキスタン・キルギスの 2 番目の貿易相手国となっているが、それぞれの国力の増強や貿易の更なる拡大がない限り、重要度は増さない。中国はスリランカなどと FTA 交渉を進めているが、劇的な変化が起こる規模でもない。

上海協力機構（SCO）関係国への中国の輸出額

	中国の輸出総額 (億米ドル)	上海協力機構メンバー(ウエイト、%)					
		カザフスタン	キルギス	タジキスタン	ウズベキスタン	ロシア	
2003	4,384.7	0.36	0.06	0.00	0.03	1.38	1.83
2004	5,936.5	0.37	0.08	0.01	0.03	1.53	2.02
2005	7,623.3	0.51	0.11	0.02	0.03	1.73	2.41
2006	9,693.2	0.49	0.22	0.03	0.04	1.63	2.41
2007	12,182.6	0.61	0.30	0.04	0.06	2.34	3.36
2008	14,291.8	0.69	0.64	0.10	0.09	2.31	3.83
2009	12,020.5	0.64	0.43	0.10	0.13	1.46	2.77
2010	15,784.5	0.59	0.26	0.09	0.07	1.88	2.89
2011	18,992.8	0.50	0.26	0.11	0.07	2.05	2.99
2012	20,501.1	0.54	0.25	0.09	0.09	2.15	3.11
		オブザーバー(ウエイト、%)					
		アフガニスタン	インド	イラン	パキスタン	モンゴル	
2003		0.01	0.76	0.53	0.42	0.04	1.76
2004		0.01	1.00	0.43	0.42	0.04	1.89
2005		0.01	1.17	0.43	0.45	0.04	2.10
2006		0.01	1.51	0.46	0.44	0.04	2.46
2007		0.01	1.97	0.60	0.47	0.06	3.12
2008		0.01	2.21	0.56	0.42	0.06	3.26
2009		0.02	2.47	0.66	0.46	0.09	3.69
2010		0.01	2.59	0.70	0.44	0.09	3.84
2011		0.01	2.66	0.78	0.44	0.14	4.04
2012		0.02	2.33	0.57	0.45	0.13	3.50
		パートナー(ウエイト、%)					
		トルコ	スリランカ	ベラルーシ			
2003		0.47	0.12	0.01	0.59		
2004		0.48	0.12	0.01	0.60		
2005		0.56	0.12	0.01	0.69		
2006		0.75	0.11	0.02	0.89		
2007		0.86	0.11	0.02	0.99		
2008		0.74	0.11	0.03	0.88		
2009		0.69	0.13	0.02	0.85		
2010		0.76	0.13	0.05	0.93		
2011		0.82	0.16	0.04	1.02		
2012		0.76	0.15	0.04	0.95		

(出所) 中国海関総署発表統計、CEIC より大和総研作成

上海協力機構（SCO）関係国と ASEAN の成長率見通し

	03~12平均	13(予)	14(予)	18(予)
SCOメンバー				
中国	10.3	8.0	8.2	8.5
カザフスタン	7.2	5.5	5.6	6.2
キルギス	1.7	2.5	2.0	2.0
タジキスタン	7.6	7.0	6.0	6.0
ウズベキスタン	7.8	7.0	6.5	5.5
ロシア	4.7	3.4	3.8	3.6
SCOオブザーバー				
アフガニスタン	9.2	3.1	4.8	4.8
インド	7.7	5.7	6.2	7.0
イラン	4.3	-1.3	1.1	2.4
パキスタン	4.8	3.5	3.3	3.0
モンゴル	8.7	14.0	11.6	8.9
SCOパートナー				
トルコ	5.1	3.4	3.7	4.5
スリランカ	6.4	6.3	6.7	6.5
ベラルーシ	7.2	2.1	2.6	3.6
ASEAN				
ブルネイ	1.4	1.2	6.0	3.7
カンボジア	7.9	6.7	7.2	7.5
インドネシア	5.6	6.3	6.4	6.5
ラオス	7.5	8.0	7.7	7.6
マレーシア	5.1	5.1	5.2	5.2
ミャンマー	9.5	6.5	6.6	7.0
フィリピン	5.0	6.0	5.5	5.5
シンガポール	5.9	2.0	5.1	3.9
タイ	4.4	5.9	4.2	4.7
ベトナム	6.6	5.2	5.2	5.5

(出所) IMF より大和総研作成

さらに、ここ 10 年間の年間平均成長率を SCO 関係国と ASEAN 加盟国で比較すると、ASEAN 加盟国の方がシナジー効果なのか、各国間で成長率の水準に大きな隔たりはなく、5~6%の成長を維持しているが、SCO 関係国の場合は、キルギスやイランのようにマイナス成長に大きく陥る年もあるような不安定要素も抱える。地域によっては治安が悪く、経済以前に人間の安全保障の徹底を図らなければならない。IMF 発表の見通しでも、今後 5 年先の成長率の安定性は ASEAN の方が勝る。

中国の対外投資先としても、ロシアへの安定した投資と、2012 年にカザフスタンやモンゴルへの直接投資の急拡大が見受けられ（プロジェクトの受注が大きく響いている）、対内直接投資の統計と突き合わせても、中国→SCO 関係国というベクトルが浮き彫りになる。ASEAN と中国の関係性を見ると、巨額の華僑資金を有しているシンガポールを除いても、地理的事情も含め、2008 年以降中国への直接投資が増加しており、均衡とは言えないものの、ACFTA の効果が見え、相互の依存が確認できる。

中国西部地区の現状と今後目指すべきもの

では、いかに中国西部と上海協力機構を繋いでいくか。寧夏省は昔から石炭や石膏の産地としても有名である。とはいうものの、主要エネルギーの 67%が石炭に依存しているが、大気汚染抑制のために中国政府は石炭から天然ガスの使用へ切り替えを推進しており、石炭産業は効率の良い生産を会得するか、ニーズに合ったエネルギー産業に転換していかなければならない。2000 年代後半に入って天然ガス産業の勃興に努めた西部は四川省内や、青海省の天然ガス田から甘肅省までのパイプラインが稼働し、2011 年時点では、四川・陝西・青海・新疆は純生産省となっている。

だが、需要が高く、さらに今後 10 年で倍増するとも言われる沿岸部への供給を実現できるような生産設備（技術）・価格・輸送網を確保できていない。その結果、2013 年冬は天然ガスの需要抑制のために、天然ガスへの切り替え事業を抑制する通知を国家発展改革委員会が出すなど、本末転倒な事態を引き起こしている。四川・陝西などの天然ガス関連企業は供給不足の影響を受けるとされている。

結局、国有資源会社がほとんどの開発・生産を牛耳っており、巨額の開発投資資金は使ったが、実需に合ったプロジェクトの進捗を見極められていない。こうした状況から脱却するには習近平主席が要望した周辺諸国の市場を巻き込んだ（＝国際的な）天然ガス価格の市場化、事業の国内外の民間参入の加速、越境パイプラインの建設など、上海自由貿易区にはない改革開放の条件を先行的に実施することも有益と考えられるだろう。天然ガスだけでなく、モンゴルも自国の石油を中国向けに輸出し、自国の消費分をロシアから輸入するような構造の歪みも解消に向かうだろう。カタールやイラクからのエネルギー調達も拡大傾向にあり、外資合弁の精製施設などを中国西部に完備することが最善の手法にもなるだろう。

中国商務部は三中全会後の定例記者会見で、改めてサービス業（金融・教育・文化・医療、

育児介護、設計、会計、商務物流、電子商務など)の開放を促進し、製造業でも鉄鋼や化学、自動車産業の外資制約の緩和を模索する旨を発表している。また、多国籍企業の地区総括部門の設立や研究施設などの誘致に尽力することにも言及した。これまで中国人民元建てクロスボーダー貿易決済の全国拡大や、営業税から増値税への転換では、上海でパイロット施行をして、1年間で北京などの主要都市での波及実施を行い、次の1年以内で全国展開を実現している。そうすると、2015年までには何らかの形で、中国西部に自由貿易試験区のような改革開放の拠点が出現する可能性があるだろう。

特に、西部に存在する“特区”に関して言えば、経済技術開発区など鄧小平の改革開放政策以降に設置された古い形の特区は、省級が中心で、沿岸部で多数承認されている国家級の数が少ない。それだけ、改革開放の力点が沿岸部にあったということだろう。とはいうものの、2000年代に入り貿易情勢に応じて多様化し、上海自由貿易試験区のベースになった保税區系列¹の特区は、ここ数年で成都や重慶に承認され、中国西部に位置する総合保税區の貿易額は中国全土の1/4超を占めるまでになっている。現在、西部では広西チワン族自治区、新疆ウイグル自治区などから試験区設置に向けた準備中、もしくは申請中との話が出ており、自由貿易試験区への期待は高いだろう。

しかしながら、前述した天然ガスを始めとするエネルギー産業のように、中国西部には沿岸部とは違った産業構造があり、望ましい規制緩和の在り方も随分違って来るだろう。上海自由貿易試験区で試験施行されている規制緩和事項をそのまま導入しても有効ではないのではとの疑問が残る。

西部の場合、第1次産業の比重が高く、第3次産業を強化しなくてはならないだろうが、第2次産業で高度な技術が根付いているわけではなく、2000年、2006年に発表されている西部が優位性を持つ産業(エネルギー・化学工業、鉱物開発・加工業、農牧業・関連加工業、大型設備製造業、ハイテク産業、観光業)の強化と、産業構造の合理化・資源節約・環境保護型社会への転換・地域間格差の是正・社会インフラ整備の加速・改革開放をベースとした市場経済体制の浸透などを謳った第11次5カ年計画(2006年~2010年)と第12次5カ年計画(2011年~2015年)の徹底に尽力すべきであると考えられる。そして、上海自由貿易区で導入されたネガティブリスト制度が全国に普及するだろうが、そのなかでも、2013年5月に発表された「中西部地区外商投資優勢産業目録」で拡大された外資の参入可能分野へ外資を誘致することに時間を割かなければならないように思える。

具体的には、2006年の全線開通の青蔵鉄道は有名になったが、産業が発展するのに重要な周辺諸国・中国沿岸部を繋ぐインフラ整備がまだ必要だろう。もしくは、サービス産業といっても観光資源を活かしたり、重慶には上場もしている国家の自動車関連研究会社の最新の研究所が操業するなどポテンシャルは活かされ始めているが、広大な土地を利用した研究施設を誘致したりするなど、特色を持たせるべきだろう。

¹大和総研レポート「中国：上海自由貿易試験区が始動」(後藤あす美、2013年10月1日付) P.7
http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/china/20131001_007740.html

加えて、2013年10月22日の中露定期首相会談時に、航空・宇宙、原子力、ハイテクの分野に共同研究などで注力し、農業・高速鉄道のインフラ分野の強化を行うと表明している。振り返れば、対旧ソ連の観点から青海省に軍事関連産業を集積し、原子爆弾や水素爆弾の開発をしていたこともあったが、民生業への転換を果たし、西部の主要拠点となっている。カザフスタン・ロシアには航空宇宙基地が存在し、中国の航空宇宙基地は四川省と甘粛省にも存在するため、共同の研究開発も視野に入れられるだろう。モンゴル・カザフスタンやウズベキスタンの主要輸出品の金や鉱物、フェロクロム、無機化合物などを利用した産業（特殊鋼の生産や化学）の強化を図ることも良いだろう。欧州の産業への輸出も視野に入れられたら、今後の展開も広がる。また、新疆は特色果物科学技術パークを建設し、アンズ・クルミ・ナツメ・ナシ・リンゴ・ブドウ・クコなどの輸出を後押しする方針を出している。灌漑設備や加工レベルの向上・マーケティングなどの分野で外資利用を加速させるのも良いだろう。漢方など医薬品の原材料の栽培も同様である。

中国西部の産業別 GDP 構成比 (2012年)

	第1次産業	第2次産業		第3次産業
		工業	建築業	
四川	13.8	44.2	7.5	34.5
内蒙古	9.1	48.7	6.7	35.5
陝西	9.5	47.4	8.5	34.7
広西	16.7	40.5	7.4	35.4
重慶	8.2	43.7	8.7	39.4
雲南	16.0	33.5	9.4	41.1
新疆	17.6	38.0	8.4	36.0
貴州	13.0	32.4	6.7	47.9
甘肅	13.8	36.6	9.4	40.2
寧夏	8.5	37.5	12.0	42.0
青海	9.3	47.3	10.4	33.0
西蔵	11.5	7.9	26.7	53.9
上海	0.6	35.2	3.8	60.4
北京	0.8	18.4	4.3	76.5

(出所) 中国国家統計局より大和総研作成

シルクロード経済ベルト構想は西部の改革開放あって成立

中国の政策は、提唱してから10年近くのタイムスパンがあつて、漸く稼働し、実を結び始める。よって、中国西部も現在フロンティア事業である上海自由貿易試験区やそれに倣おうとする広東や深センなど沿岸部の立候補地と同じことを導入しようとせず、西部大開発の号令をかけた当初からの成果を見直すタイミングである。中国西部が得意とした産業、もしくはそれらを発展させた産業、そして、上海協力機構に参加している中央アジアや、その先の中東・欧州のニーズを集約できる産業へ旗振りするための改革開放の段取りを、沿岸部とは別途用意すべきであろう。そのような意味も込め「シルクロード経済ベルト構想」の提唱を行ったと考えられる。ここ2年ほどで勝負所を迎える。西部の“推奨”産業を“外資”と“民間”の視点でアピールする材料をどれほど具体的に盛り込めるかで、中国政府の改革開放の本気度や外交のベクトルが明確になるだろう。